夕刊
磐城新聞
八月二日發行
定價一ヶ月金六拾錢　郵税拾錢
廣告料金　一段一行金六拾錢　二段一行金一圓
發行人　柏木哲
磐城新聞社
福島縣平市大字平字田町十六番地
電話平一〇番
（日曜祭日翌日休刊）

信濃の旅（二）

島田忠夫

諏訪まで

翌朝、早くから講議をした。湖を渡つて宿まで食事にかよふ。聽講者の中に舟を漕ぐに巧みな人が二三ゐる。昨夜、ほとゝぎすがよく鳴いて、うつかりして夜明けに至つたなどといふ人がゐる。また昨夜は島木赤彦先生のみづうみの氷は解けて猶さむし三日月のかげ波にうつらふといふ歌を問題にして研究した。やはり斯ふいふ所へ來て、初めて味へるのである。秀歌であるのに深く打たれる。

○

この日の講議は實が入つた、三四人で速記した。斯うして講議を直ぐ速記さるるのはちよつと面はゆい。後に目を通すことにする。

妙高や黒姫の峻峰がそびえ、飯綱山も頂をあらはしてゐる。こゝから妙高池の平は一里餘である。今秋の講議は大方池の平で行はれるであらう。

○

夕刻、姥捨あたりを走る車窓にゐた。田圃の月で名高い所を見下ろしてゆく。別れた熱心な聽講者を忘れがたく思はれる。上諏訪へ着いたのはやゝ夜更である

諏訪湖畔の布半ホテルへ行く。赤彦先生と關係深き地、また關係深き宿であるアララギの田中周三氏などが來て呉れてゐた。

○

明日、赤彦先生の墓へ詣るのである、宿に命じて花を買はせる。温泉に浸り乍ら、うつら〳〵とする。赤彦先生が思はれてならないアララギの人たちが歸つた。三階の涼しさうな二室を僕は占めてゐる。さて床に就くと伸々眠れぬ。

諏訪湖で、何か夜鳥が鳴く。なかなか眠れない。辻村直氏や、藤澤古實氏にハガキを書いた。やがて夜半であらう。僕はこんな歌を便りのハガキに書いてみた

今は亡き師の郷に來てたかぶれるこころ一夜

時代警語

○黄金種なし獨り勤儉の人に生ず（英俚諺）

貯蓄心の有無は收入の多少よりも寧ろ之を實行せんとする意志の有無に基くものである、而して貯蓄心は眞に金錢の重んずべきを了解し且つ將來の目的の爲に眼前の快樂を犧牲とするに起るのである……

潮聲俳筵　第四十六回句筵（於木兎莊）

席上即吟（虹、土用）　其二

滿潮のことさら高き土用かな　松堂
夕虹や富士玲瓏と相對す　晩霞
水郷に土用の臨時列車かな　十里
紺碧の潮ふくれ來し土用かな　芳月
晴れやかな土用三郎暮れにけり　松堂
砂埃にダリヤ色なき土用かな　眞砂常
裾やうやく脛にからまる土用かな　晩霞
うすれ行く虹靜かなる入陽かな　芳月
藥草を摘む日を撰む土用かな　十里
うなだれし屋根草匂ふ土用かな　石城
病む親にすむ土用の鰻かな　香雨
照り土用路傍の草の砂ほこり　鶴歩

磐城歌壇

芙美夫

○終日の田植に疲れ早寢せし夜の寝息の安らかに聞ゆ
○病み上りの我にしあれば田植せず夏の短か夜を獨り明かすも

小松綺芳子

○雨はれし庭の櫻のみきの色今朝は一入色濃くみゆも
○會ひたしとともすれば想ふ我が心叱りてみるもすべのなかりき
○心にもなきこと云ひて炎へるその上の女を今なつかしむ

洋横斷飛行再擧、シアトル出發（同六）

社會の今日

○

今年また隣の槻に二番子のすゞめの巣立ちて夏もふけたり　太田水穂

みかへれば人もみかへる白い顔、くるりと變つた空の廣告燈　比良木惠子

童話　安の話（三）

千葉省三

とび上るたびに、もうもうと土ほこりが立つ。安の

※の着物や、頭はいちめんきなこをまぶしたやうになつてゐる。安の鼻の下やほつぺたは、ほこりが鼻汁や汗にへばりついて眞黑になつてゐる。でも安は嬉しくてしようがないやうにひとりで、ひぐくやうに笑つては、又羽ばたきを初める。

空にはちぎれ雲がいくつも浮んでゐる、芝ッ原は、ときどき蔭つたり、明るくなつたりする、日がさすと土ほこりは金の粉のやうに光つて飛ぶ。

『乞食の子なんちもな、着物よこしたつて、しかられねゝもんな』

助治が羨ましさうに云ふ。いつの間にか、土手の原には大勢の生徒が集つてゐた。

『安！』

どうとう、助治が大きな聲で呼びかけた。安は羽ばたきをやめて、キョロンとした顔をしてこつちを眺めた。

『面白えか？』

『面白え！』

そしてまた羽ばたきをして見せた、※の着物がほんとの羽根のやうにバラバラ空にひるがへつた。

『面白ね！面白え』

安はまたかう叫んで、ひぐくやうに笑つた。

私たちも、つりこまれてみんな笑ひだした。

圖書の時間だつた。

月井先生が、コクバンへ兎の書をかいてゐた。

講談　お蘭陀お蝶（97）

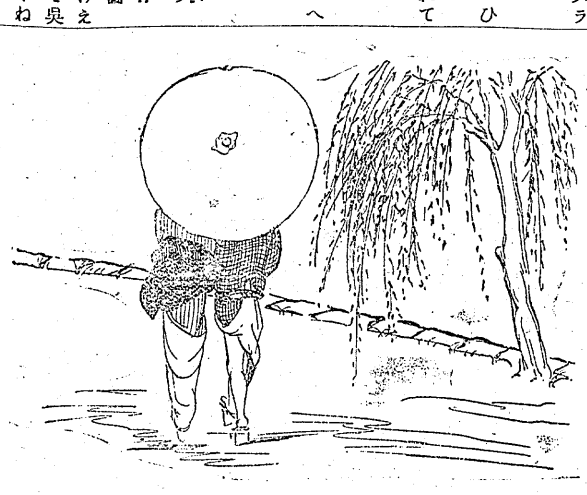
渡邊默禪作
布施長春畫

『喰ひ殺されて堪まるけえま、おちついて話をして呉んな、見つともねえぢやねえか』

『見ともないと言ふことをお前さん承知かえ、承知なら何故こんな体にしてお呉れた、ほんとに〳〵氣恥づかしくて人前が惡くつて洗蹴にするなんざあ罪だよ、可哀想だよ、殺生だよ、おり前に欺されたのは私の足らない所だから、それは身から出た錆だと諦めもするし又今まで入れ揚げた、お金や着物も、返して呉れとはなつて、何れ曝し首のお仕置と相場が定まつてるのよ

此のお腹の始末だけは是非さあ此の手柄を誰がしたと言ひやしないけど、兵さん吟味になりや、本家本元はこの兄いだらう、シラ見れば、お前其のくれえの果報にありつゝのは當然ぢやねへか』

『まあ偉いのね』



だけおいしそうなお辨茶羅を言つてさんざ人を迷はせて腹一杯なぐさんで置いて易ならぬ企み事をしてゐるのを俺ア何んだ、同心頭の平山の旦那の差金ですつかりたねを洗つてやつたんだよ、オヤ泣くのか、泣いてはれてゐる先生さまだね』

『うむ、其の大鹽が今度容

『へえ！』

『其れでもつて今に大鹽の

『なに、お腹……そいつはチト……むゝ可いつてことか』

拈華微笑

◇地元であの慘敗外へ行つたらどうだつたらう磐城

◇蛇のやうな腰を伸ばして爺婆の中柔劍道部選手

◇而も遠征し乍ら同校競技部の第二位、幾に悲むるに足るか

◇笛太鼓を聽くに物よどしたつて、しかられねゝもんな

◇青年巖頭の感安あるなし。某

◇愈々今日から舊盆月。踊る月、決濟で氣が揉める月

○……○

ラヂオ

……三日…（水曜）…

仙臺　JOHK

△前六、〇〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象
△九、一〇　料理献立（茄子の胡麻汁）中村光三、日用品値段
△一〇、三〇　家庭講座（聾唖の教育）東京聾唖學校長樋口長市
△正午A　時報
△後〇、〇〇A　オリンピック大會狀況（米國NBCロサンゼルス放送局より中繼）
△一、〇〇A　ニュース　氣象
△二、〇〇　六、〇〇　運動競技（全國中等學校野球大會東北豫選大會狀況）福島市協會グランドより中繼
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇A　ニュース
△六、〇〇B（子供の時間）お話（あぶないお話）醫學博士西谷宗雄
△六、二〇A　コドモの新聞
△六、二五A　カレント、トピックス
△六、三〇C　山と海の講座（木會の御嶽と駒ケ嶽）帝室林野局名古屋支局長眞鳴俯
△七、〇〇A　ニュース　氣象　生蘭相場
△七、三〇A　運動講座（都市對抗野球戰の陣容と豫想）橋戸頑鐵
△八、〇〇A　管絃樂　日本放送交響樂團（新交響樂團練習所より中繼）
△八、五〇A　連續ポ花飾
△九、三〇A　講演（ラヂオ趣味の諸相）遞信省業務課長田村謙次郎
時報　ニュース　氣象
生蘭相場

吉田眼科病院
（橋英英）東家樂燕

提灯　御新佛御供養の
御法名入提灯の大奉仕
瓜形一對房付　金一圓五十錢より
角形同　金一圓九十錢より
其他岐阜提灯種々取揃へてあります
是非御下命は電話九五番
平四丁目　スガノヤ提灯店

預金には税金がかゝりません
御子様の爲めに貯金！
平町田町（新道通り清水醫院跡）
福島貯蓄銀行
平支店
電話三〇八番
預金と拂出し御融通も懇切御便利を旨とし月掛貯金には集金人が伺ひます。
福島縣は金貯へ蓄

東京田久保製
堅牢無比丸ゴム輪付
小供自轉車　一圓五十錢ヨリ
大形特等自動車　三圓八十錢ヨリ
二人乘乳母車　八圓五十錢ヨリ
商號豆屋
教育玩具雜貨　問屋　森下商店
平町一丁目電話三九七番

各生命保險會社
◎保險證書ニ即時御融通致シマス
◎債權御取立ヲ御依賴ニ應ジマス。
◎債務ノ整理御依賴ニ應ジマス。
平町南町廿三夜側
匿名組合　寶商事社　伊東

金融

内科、小兒科
外科一般、婦人科
外科、梅毒、淋疾
皮膚病
市原卯太郎
市原陸郎
平町田町本通　市原三三男
市原醫院
（入院隨意）電話一一四番

耳、鼻、咽喉科
氣管、食道科専門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院
大和田郡司
（自炊の便あり）

度量衡。計量器。
吸入用酸素。
酸素吸入器。
關内藥局
電話四〇番

横濱植木株式會社特撰
草花、蔬菜類
優良種子
各種賣出し致しました。
農園藝やく品の御相談は
西村屋藥局
電三番

耳鼻、咽喉科、氣管、食道科、專門
平町南町（元良木辯護士跡）
增田耳鼻咽喉科醫院
（入院隨意）電話四八二番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備（電話一二九）

良品廉賣に勝る
商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋
和洋銅物
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は釜の生命なり

お醤油は……ヤマフル
味噌醤油
たひら正宗
鰹節食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

石炭の大特賣
◎塊炭　正味十貫目　一俵　金貳拾錢也
▲『品ガ良ク』『値ガ安ク』『目方ハ正確』デス。
▲トニカク一度使ツテ見テ下サイ。
◎配達ハ一俵ヨリ致シマス。
御注文ハ
電話三七番
阿部石炭商店
平停車場前

筒井氏對解雇從業員
折衝圓滿に成立せん
物件を賣つて手當を支給

過般休山を發表した赤井村筒井炭鑛では關係者に對する解雇手當の支給が決定せぬ迄經營者が一日五十圓の食費を負擔し乍ら夫々其間の折衝を急いで居るが同鑛には喞筒、捲揚げ、其他機械器具、線路、長屋、棧橋、積込場其他曩年三萬餘圓を投資した物件あり、右は最近平町高橋亀松氏の權利に歸屬してゐたが手當支給の爲に之を充てねばならぬ前後の關係上之を棄權し結局經營者は之れを適當に賣却した上手當に振り向け多くの折曲無くして一兩日中無事解決するものと觀測さる

中堅青年移動講習
愈々明三日から開始

郡中堅青年移動講習會は愈班を一組とし各組小學校長々明三日より平潟、大津、引率、大河原副團長總指揮磯原の三ケ所に於て中曾根の下に出發午後一時二分で教育主事外四講師の下に天幕撤去、飯盒炊爨、見學、勿來役場前、第二日大津小奉仕作業等三泊四日の豫定學校、第三日磯原宿海岸松で開始されるが明三日は午林で講師指揮者も同一天幕前十時磐中集合各團から二に起臥し總て軍隊式に行動名宛を詮衡した一行八十八をなし時局柄大に意義あら名は全体を六班に編成し二しむる方針であると

善戰第一位獲得
大會出場の磐中競技部

昨一日午前七時から喜多方學校野球大會東北豫選で遠中學に開かれた第十一回縣野中學と對戰し杉浦は强打下中等學校陸上競技大會に チームの遠中に對し緩球で磐中軍は左記成績で三十點奏効し打者を凡飛球で殺しを獲得し第二位となつた　强豪遠野を一點に阻む完投

二百米1金成(六點)　四百米3藥谷(四點)　八百米1箱崎二分十秒新記錄(六點)　八百繼走3金成白土、藥谷廣、藥谷正(四點)棒高跳3白土(四點)五千米3鈴木(四點)　走高跳5鈴木(二點)

野球零敗
磐中涙を呑む

同福島で開かれた全國中等學校野球大會東北豫選で遠野を一點に阻む完投だつたが打込み難しとみた相手にバントで攻められ八米1箱崎二分十秒新記錄對○で零敗を喫した

武道亦奮はず
磐中、平商の成績

同磐中で開催した柔道は磐中十番(四十四點)平商十二番(三十一點)劍道—磐中十六番(四十二點)平商十七番(三十二點)

郡聯合青年團体育大會
來廿一日磐中で開催
平は既に練習に入る

郡聯合青年團体育大會は來二十一日午前九時から磐中グラウンドに於て開催すべく郡内四十三團では目下選手の詮衡をなすと共に平の如きは早くも榮冠を目指し炎熱の下に猛練習を始め既報の如く七日選手權大會を開き出場選手を決定する筈で盛會を豫想されてゐる

濱三郡中等　八日午前
校野球大會　八時から
双中グラウンドに開催する

ラヂオ体操
誰でも參加歡迎
第一、第三兩小學校で
昨日から開始

平町第一、第三小學校では昨一日午前六時から二十分宛ラヂオ体操を各校庭に於て開始したが割合に出席者が多く今二日は第一校二百三十五名、第三校二百三十三名で好成績を示したが生徒に限らず多數の出席を歡迎する

負擔に堪へぬと
遊興稅減額要望
平藝妓屋組合今年も騒ぐ

平藝妓屋組合の今年度遊興稅は昨年同樣大体八千圓見當で近く縣稅務平出張所から内交渉を進める事となつたが組合では玉數が毎月平均七八千本の激減を續け去月も一萬一千七百五十本で七千餘本の赤字に稅金稼ぎも出來ぬ處から現在百三十一名の藝妓中賣行き惡い三十五六名を無理に休ましてゐる有樣に何れも悲鳴を擧げ遊興稅の激減を要望して居る折柄昨年同樣に賦課され倘迄減額を要求すべく寄居る折柄昨年同樣に賦課され倘迄減額を要望して居る折柄昨年同樣に賦課され倘迄減額を要望して居る折柄昨年同樣に賦課され倘迄減額を要望して